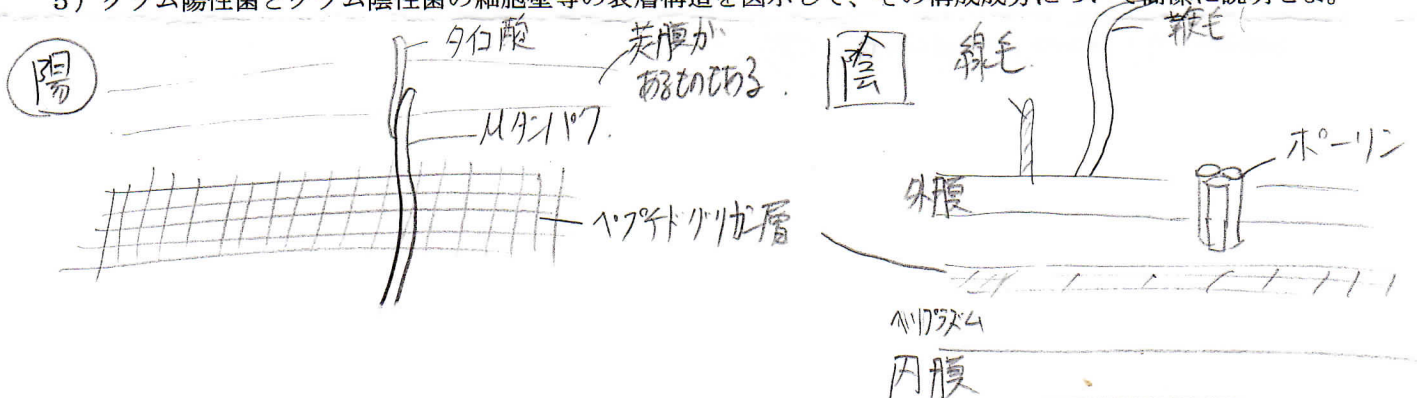


(前ページから続く)

- ~~44)~~ 抑制性シナプスの障害 45) ガス壊疽 ~~46)~~ 性感染症 47) 菌交代症
~~48)~~ 交通事故 ~~49)~~ DPT ワクチン ~~50)~~ 米のとぎ汁様下痢 ~~51)~~ 野ウサギ ~~52)~~ マルタ熱
 53) 肝疾患 ~~54)~~ 温泉 ~~55)~~ BLNAR 56) ノミ 58) スーパー抗原 ~~59)~~ 比較的徐脈
~~60)~~ タンパク合成阻害 ~~61)~~ 瘧疾 ~~62)~~ アルコール多飲者 63) 4℃で増殖可能
 64) 健康な皮膚からも感染する (65) コレラ毒素と 80% (アミノ酸) の相同性
~~66)~~ 少ない菌数 (10~200) で感染する ~~67)~~ 腸管で芽胞形成時に毒素が産生される
~~68)~~ 胃切除者は重症化しやすい ~~69)~~ ファージ変換によって無毒菌が毒素産生菌となる
~~70)~~ 米国では患者の 85% が妊婦であった ~~71)~~ Thermostable direct hemolysin
~~72)~~ 臍帯の不適切な処置 73) 気管支の線毛上皮細胞に付着
 74) 我が国のイヌの 2~5% に感染歴がある (75) 同居者に抗菌薬の予防投与を行う
~~76)~~ 線毛の消失変異 ~~77)~~ 下痢と猩紅熱様発疹
 78) 所属リンパ節のゴルフボール大の腫脹 (79) セフェム薬は無効であるがペニシリン薬は有効
 80) 毒素の活性は Monoglucosyltransferase による Rho タンパクのモノグリコシル化
 81) パスツールが莢膜欠損株を樹立して、家畜用弱毒ワクチンを開発した

5) グラム陽性菌とグラム陰性菌の細胞壁等の表層構造を図示して、その構成成分について簡潔に説明せよ。



陽性菌は膜構造上、内側にペプチドグリカン層があり、陰性菌は内膜、外膜がある。細胞壁の大部分を占めるペプチドグリカン層は陽性菌の方が厚い。陽性菌には接着因子となる Mタンパクや群抗原 (タイコ酸) があり、群型を分ける際にも利用されている。陰性菌の外膜の成分には LPS があり、この側鎖が O 抗原 (Okada hauch 由来) であり、リビド A は人体の炎症反応に重く関与をする。陰性菌の外膜の透過性を決めるのはポリーリン (三量体が多い) であり、分子量が大きい抗菌薬が陰性菌に効きにくいのはポリーリンを通らないためである。陽性・陰性のどちらにもある (菌もある) 構造として、莢膜が挙げられるが、成分は菌種によって異なる。

書き足りなければ裏面を使用してよい。